

新しい国民的・民主的共同の呼びかけに応え、班が草の根からたたかおう。歴史的情勢のもとでの新しい局面をもっと前に進める同盟組織をつくろう

2025年11月24日 採択

## 第1章 情勢と民青同盟の役割

### (1) 国際情勢

イスラエルによるパレスチナ・ガザ地区でのジェノサイドをはじめ非人道的な行為の黙認、ロシアによる武力行使での領土変更の容認、明白な「国連憲章」違反であるイラン攻撃、核実験の再開指示、一方的な関税率の強制——「自国第一」を掲げ勝手放題を続けるトランプ米政権は、世界の平和的秩序も経済的秩序も根底から壊しつつあります。力で物事を解決しようという歴史の逆流が、あらゆる分野で強化されかねない事態です。しかし、米政権に対して、国連や各国の対応も強まり、また各国の人民も理性と良識を発揮し声を上げていることは重要です。歴史の本流と逆流のぶつかり合いは、一方でトランプ大統領の出現、また一方で国連や各国のアメリカへの対応強化、各国の人民の決起によって、状況が変わりつつあります。一日でも早い、ガザ地区解放およびウクライナでの公正な和平など、国際社会の力が試されています。

日本政府は、「アメリカいいなり」の枠から出ることがなく、平和憲法を持つ国としてはあまりにも問題のある姿勢を継続・強化しています。74カ国が批准した核兵器禁止条約への後ろ向きの対応や、国内での敵基地攻撃能力ミサイル配備は、その顕著な例です。高市首相がトランプ大統領と会談し、さらなる軍拡を約束し、国連憲章・国際法違反で指弾されるべきトランプ大統領をノーベル平和賞に推薦すると表明したことなども重大です。日本が、歴史の本流と逆流のどちらに立つか。「アメリカいいなり」でいいのか。このことが、鋭く問われている状況となっています。

また、トランプ大統領の「自国第一」とも関連し、各国で強まる極右・排外主義の潮流にも注意が必要です。日本もこの例外ではありません。各国の様相は様々ですが、欧州の一部では、伝統的な保守政党と極右・排外主義が結びついた事例が生まれたり、そのなかで左派政党が正面から対抗し広い支持を獲得したりといった経験がつくられています。欧州の経験にも学び、日本での極右・排外主義勢力の伸長を防ぎ、日本を「自国第一」の政治にしないことは、国内はもちろん、世界からも求められていることです。

ニューヨーク市長に、トランプ大統領の妨害をはねのけ、「民主的社会主義者」のゾー

ラン・マムダニ氏が選出されました。シアトル市でも「社会主義者」を自称するケイティ・ウィルソン氏が市長に選出されています。世界の資本主義をけん引してきたアメリカで、資本主義を乗り越える動きが強まり、現実の政治の力関係に大きな影響を与えていることは重要です。

## (2) 日本の政治

2024年10月の衆院選以降、青年が自民党政治に代わる新しい政治を模索する、歴史的情勢がつけられました。それは、青年が、「財界中心」「アメリカいいなり」という「二つの異常」を自覚し、そこから抜け出す展望に行き当たるまで、紆余曲折を経ながら認識を発展させていく一連の過程です。そして、2025年7月の参院選以降、歴史的情勢のもとで、高市自民・維新連立政権発足をはじめとした新しい局面が生まれました。

高市自維政権は、衆参連続の与党大敗・過半数割れによって発足した政権です。26年間にわたって自民党政治を支えてきた公明党が、与党批判に耐え切れなくなつて自民党との連立を解消し、その結果、追い詰められた自民党が維新と連立を組まざるを得なくなりました。これは、歴史的な出来事であるとともに、自民党政治の存続をさらに危うくしています。高市政権の発足は、自民党が追い詰められ自民党政治がよりいっそう大きな危機を迎えているなかでの出来事です。

高市政権は、国民民主党や参政党などが協力姿勢を取るなかで、「反動ブロック」を形成しつつあります。さらなる大軍拡、長時間労働を強いる労働時間規制緩和、医療・福祉切り捨て、「偽の改革の旗」ともいえる衆院比例定数削減などが狙われ、自民政権の悪政がさらに拡大しています。追い詰められた自民党は、これまで以上に「財界中心」「アメリカいいなり」の自民党政治を強化することによって、権力維持を狙っているのです。

高市政権・「反動ブロック」に正面から対決するのが、日本共産党が呼びかけた、新しい国民的・民主的共通です。これは、政治から極右・排外主義が持ち込まれることに断固反対したたかうとともに、草の根から、暮らし、平和、民主主義を擁護・発展させるためにたたかう枠組みです。様々な形が各分野で探求されていますが、この共同は、高市政権・「反動ブロック」を打ち破り、自民党政治を終わらせる歴史的なたたかいとなるでしょう。

このような新しい局面で大事なことは、新しい局面も歴史的情勢の一場面であり、青年の模索は、日本の政治を「財界中心」「アメリカいいなり」という「二つの異常」から抜け出させる確かな展望に行き当たるまで、続くということです。高市政権・「反動ブロック」もその根本には「二つの異常」を抱えており、一時的に期待が寄せられても、必ず、青年の願いを裏切ります。高市政権は悪政を一気に進める危険性を持っている政権であるとともに、その根本に脆さを抱えている政権です。青年の模索が深まるなかで、高市政権の存在は、大局的には自民党政治の終焉を早めるものとなるでしょう。

青年の苦しさのおおもとにあるのは、外国人や高齢者の存在ではなく、「二つの異常」を特質とする自民党政治です。このことを各分野で、国会および草の根から明らかにしながら、高市政権・「反動ブロック」を包囲していくその先に、歴史的情勢の前向きな突破、自民党政治の終焉があります。新しい局面のもとで、自民党政治を終わらせる道筋はより鮮明になっています。

### (3) 青年の大きな変化と民青同盟の果たしてきた役割

新しい局面にあつて、青年はよりいっそう模索を深めています。第一に、この間、青年は全体として自民党政権を打倒する方向に大きく変化してきました。参院選における自民党の得票率は10代・20代で10%前半に過ぎません。これは前回衆院選の20%台と比較しても大きな減少ですが、おおむね40%を記録していたこの10年間という視野で見ると、青年と政治の関わり方が土台から激変しているのです。したがって、歴代の自民党政権以上に自民党政治の方向に舵を切る高市政権の本質が明らかになったとき、青年は自民党政権を打倒する方向にこれまで以上に変化し、自民党政治を終わらせる巨大なうねりを起こしていきます。第二に、参院選においては、青年が自民党に代わる選択肢として、国民民主党や参政党などに大きな期待を寄せた事実がありました。世代間分断や排外主義を煽る勢力に期待を寄せってしまったことは軽視してはいけないことです。が、あくまで模索の過程に過ぎません。高齢者や外国人ではなく、「二つの異常」が悪政の根本にあることに気が付いたとき、全体として自民党政権を打倒する方向に起こっている青年の大きな変化が、自民党政治そのものを終わらせる巨大なうねりとなっていきます。

第48回大会期の民青同盟は、青年との関係で、「願い実現のために力を尽くす」「深刻な実態のおおもとに政治の問題、資本主義の問題があることを指摘・告発する」「理論的にも実践的にも、社会や政治が変わる展望を示す」「青年に働きかけ、ともに立ち上がり、ともに生き方を考える」という「四つの役割」を、歴史的情勢のもとで鋭く発揮してきました。

学生新歓運動では、新入生の要求実現に力を尽くし大学生活のスタートを支えるとともに、この社会のなかでどう学びどう生きるかを問いかけ、たくさんの新しい仲間を迎えました。食料支援活動や要請行動など、身近な青年の困難をつかみ寄り添うとともに、困難を解決するための具体的な行動が全国各地で取り組まれました。「学生オンラインゼミ第四弾」をはじめとして社会や政治が変わる展望を自分たち自身がつかむとともに、「共産主義と自由キャンペーン」のように街頭対話などでその展望を多くの青年に語り広げてきました。都議選・参院選では、青年とも力を合わせながら、世代間分断や極右・排外主義を否定し、本物の展望をたくさんの青年に示し続けました。各地の若者憲法集会実行委員会に結集し、草の根で青年とともに「敵基地攻撃能力保有・大軍拡に反対する青年の草の根ネットワーク運動」(「ネットワーク運動」)に取り組むとともに、若者憲法集会2025とデモの参加を広げ、正面から敵基地攻撃能力保有・大軍拡とたたかい

ました。役員先頭に街頭などで無数の青年と対話し、仲間を迎えたことはそれ自体が顕著な役割の発揮となりました。

これらすべての活動が、情勢のなかでおこなわれ、情勢に影響を与えてきました。歴史的情勢を前に進め、自民党が追い詰められている新しい局面をつくり出すことに、様々な角度から民青同盟は貢献してきたのです。このことを大きな確信にするとともに、高市政権のもとでこそ、よりいっそうの民青出番の情勢であることを同盟全体の認識にしましょう。

#### (4) これからの民青同盟に求められること

では、新しい局面で民青同盟に求められることは何でしょうか。それは、「四つの役割」を新しい局面にふさわしく発展させながら、青年との関係で発揮していくことです。その発揮の方向は、大きく四つに整理されます。ここをつかんで離さず、情勢にふさわしい役割を発揮していきましょう。

第一に新しい国民的・民主的共同の呼びかけに応え、共同を草の根から広げ、青年とともに高市政権・「反動ブロック」を包囲していくことです。若者憲法集会実行委員会の取り組みを基礎としながら、各地域・職場・学園でのたたかいを広げます。このたたかいをいかに大きなものにできるかは、新しい局面の今後を大きく左右します。

第二に、たたかいと学びを通じて、青年から世代間分断や極右・排外主義の影響を取り除くとともに、「二つの異常」という、おおもとにある自民党政治の問題を指摘していくことです。いま生まれている青年の大きな変化を、自民党政治を終わらせる巨大なうねりに転化させるために、これは決定的に重要です。

第三に、科学的社会主義の理論を同盟内でよく学ぶとともに、思い切って青年のなかに普及し、『資本論』ブーム「科学的社会主義ブーム」を各地の青年のなかに巻き起こしていくことです。資本主義の限界を感じている青年がますます増えているなかで、この取り組みを強めることは、青年が社会変革の深い展望をつかみ、そのもとでどう生きるか考える大事な機会となります。

第四に、民青同盟が青年の大きな変化を受け止めて、もっと強く大きな組織になっていくことです。ここまで述べてきたように、民青に求められる取り組みはますます大きくなり、青年とともにたたかう主体となる班の発展や、それを支える機関の強化は喫緊の課題となっています。この間培われてきた同盟建設論に基づき、数万といえる民青同盟をつくることが求められています。

## 第2章 青年とともにたたかい、学ぼう

(1) たたかいの基本的方針——若者憲法集会実行委員会の取り組みを基礎に、草の根

から新しい国民的・民主的共同を

日本共産党の呼びかける新しい国民的・民主的共同づくりに応え、草の根から青年のなかに大きな共同をつくりましょう。民青同盟としては、若者憲法集会実行委員会の取り組みを基礎とします。若者憲法集会実行委員会は、憲法を守り生かすことを一致点に、2014年から全国集会とデモをおこなってきた運動体で、いまは各地域・職場・学園に300以上の実行委員会をつくっています。若者憲法集会実行委員会は、9月4日にアピールを発表し、草の根でそれぞれの若者憲法集会実行委員会が青年の希望となり値打ちを輝かせることを呼びかけました。これは、日本共産党の呼びかける新しい国民的・民主的共同に青年分野として応えるものでした。第49回大会期の民青同盟は、他団体とともにこの若者憲法集会実行委員会に力を合わせ、新しい国民的・民主的共同を広げていきます。

このたたかいは、情勢と青年との関係で大いに求められるものであり、また、この間の民青同盟の取り組みの蓄積が大いに生かされるものとなります。その一方で、“反動ブロック”とのたたかいを考えると、これまでの延長線上でとどまってはならないことも事実です。このたたかいを必ず成功させるためには、同盟全体が確かな方針を持つことが間違いなく必要です。すべての同盟組織が、以下三つの基本的方針に基づいてたたかをつくりましょう。

第一に、青年の要求を根本からつかみ、暮らしや平和をめぐる要求を出発点とし太く貫くということです。たしかに、青年の要求は多彩なので、様々な取り組みが可能であり、出足早く、これらに取り組むことも大切です。しかし、模索するすべての青年にとっての希望となるためには、多彩な要求を掘り下げ、根本からつかみ、青年が広く一致する暮らしや平和をめぐる要求でたたかいつくっていくことが必要です。そのようなたたかいが太く貫かれてこそ、多彩な取り組みも真に魅力的になり、様々な要求実現の機会も広がります。また、これは、「二つの異常」を告発し、自民党政治を乗り越える巨大なうねりをつくっていく民青同盟の役割発揮でもあります。

要求を掘り下げ根本からつかむにあたっては、多彩な取り組みがあるならばそれと組み合わせつつ、青年からよく聞き取る具体的な手立てを打ちましょう。民青同盟は2021年11月から2022年5月まで「青年の生の声運動」をおこないました。青年一人につき最低20分の時間をかけて、(i)いまの暮らし向き(ii)いまの政治(iii)日本の格差と貧困、について思いや実態を聞く取り組みでした。民青同盟として、こういった取り組みも大いに参考に、大きな共同をつくるために知恵と力を尽くしましょう。

第二に、若者憲法集会実行委員会のいずれの取り組みにおいても青年との共同のなかでおこなっていくことを追求するということです。暮らしや平和をめぐるたたかいは太く貫きつつ、多彩な行動・学習をすることができものが若者憲法集会実行委員会です。それは青年との共同を広げるとともに、重層的な共同に発展させていくために、極めて有効な運動形態です。しかし、形態がそうであっても、独自の努力がなければ、青年との共同はつくられません。民青同盟としては、その独自の努力を後押しし、あらゆる取

り組みが青年との共同のなかでおこなわれることを目指しましょう。

第三に、班の取り組みにすることにこだわり抜くということです。この間の若者憲法集会の特徴は、年一回の全国集会とデモの成功を力に草の根のたたかいを発展させ、草の根のたたかいの発展を年一回の全国集会とデモの成功につなげ、それらが全体として世論と運動を形成していく相互作用にあります。民青同盟としても、若者憲法集会の特徴を生かし切れるように、「班が主人公」で、各地域・職場・学園に根差した草の根のたたかいをつくりましょう。これは、新しい国民的・民主的共同で「反動ブロック」を包囲するうえでも欠かせません。青年は、各地域・職場・学園で暮らし、働き、学んでいます。これらすべての青年の身近なところに、希望となる若者憲法集会実行委員会が姿を現してこそ、強く大きな共同がつくられます。その点で、若者憲法集会実行委員会からの新しい運動の提起は、まさに民青班こそが力を発揮できる提起です。

## (2) 各分野のたたかいの方針

民青同盟としては、若者憲法集会実行委員会の取り組みを基礎としながら、全体として以下の要求を重視してたたかいを進めます。民青同盟や若者憲法集会実行委員会など、取り組みの主体を整理しながら取り組むようにしましょう。

### ■暮らし・働き方

青年の暮らし・働き方は引き続き深刻な状態にあります。高市政権の労働時間規制緩和に断固反対の声を上げ、賃上げと労働時間短縮の両方を重視してたたかいを進めましょう。最低賃金改定はまだまだに不十分であり、発効日遅延などの問題もあります。民青同盟としては、全国一律に「時給1500円で手取り20万円程度」をすみやかに実現するとともに、時給1700円を目指します。労働時間短縮は、それを求める声の高まりによって課題として認識されつつありますが、生活を支えられる賃金の確保と一体でおこなっていく取り組みが必要です。「高齢者の医療費を削って現役世代の手取りを増やす」などといった世代間分断かつ青年自身のクビを絞める主張に対しては与することなく、事実をもとに根本的な解決策を提示しましょう。

班は、各地域・職場・学園の若者憲法集会実行委員会、職場の労働組合などと力を合わせて、実態調査・聞き取り、学習会、宣伝・対話などをおこないましょう。民青同盟としての独自の取り組みは、それらの後押しになります。

### ■平和・憲法・核兵器廃絶

軍事予算の大増額、敵基地攻撃能力ミサイルの国内配備など、敵基地攻撃能力保有・大軍拡の具体化が始まっています。「反動ブロック」によって改憲策動含め、戦争国家づくりが加速しています。高市首相が、「台湾有事」を「存立危機事態」と発言したことや非核三原則を見直す動きを見ていることは、極めて深刻です。

各地域・職場・学園の若者憲法集会実行委員会と力を合わせて、学習会・宣伝対話な

どをおこなうとともに、「ネットワーク運動」を継続する実行委員会ではそれを位置付け、情勢にふさわしく発展させましょう。民青同盟としての独自の学習会などは、それらの後押しとなります。

若者憲法集会2026は2026年5月31日です。これを大きく成功させましょう。また、原水爆禁止世界大会への参加も位置付けましょう。

また、民意切り捨てに他ならない衆院比例定数削減についても、反対する取り組みを広げましょう。

#### ■学費・奨学金

国公立・私立ともに学費値上げの流れが継続しています。同時に、声を上げる学生たちが生まれていることは大きな希望です。学生と力を合わせ、学費値上げを止め、学費値下げの流れをつくり出しましょう。

各学園で「会」をつくることに思い切って挑戦し、学費・奨学金についての、実態調査、学習会、宣伝・対話、署名などに取り組みましょう。民青同盟や学園の若者憲法集会実行委員会としての学費問題学習会などを行うことが、「会」づくりやその行動の後押しとなることもあります。また、民青同盟としての学生向けの食料支援活動も、条件のあるところで継続しましょう。

#### ■気候危機・原発

世界でも日本でも異常な猛暑が様々な被害や危険を生み、青年・国民はよりいっそう危機を強めています。気候危機の打開は、人類と地球にとって待ったなしの課題です。アメリカのパリ協定からの離脱などの大逆流があるなかで、日本はそれを批判するどころかあからさまな協力姿勢を示しています。後戻りできない破局的な事態に陥る前に、国際社会と協調し先進国にふさわしい責任を果たす日本政府に必要があります。

一方で、政府が気候危機対策も名目に活用しようとしているのが原発です。原発の新規建設や老朽原発の運転期間延長は、経団連の求める「原子力の最大限活用」であり原発回帰そのものです。こういった動きは「反動ブロック」により加速する危険があります。

民青同盟や若者憲法集会実行委員会などで現状をよく学び行動の力にするとともに、声を上げている青年たちと草の根で力を合わせていくことに挑戦しましょう。

#### ■極右・排外主義

外国人を差別する極右・排外主義勢力が、台頭しています。民青同盟は、これを軽視せず、断固許さない立場です。あらゆるたたかいのなかで、この立場を堅持します。

極右・排外主義勢力台頭の土台には、自民党政治のもとでの青年・国民の生活の苦しさや閉塞感の高まりがあります。その苦しさや閉塞感のおもとが、「二つの異常」ではなく、外国人優遇であると誤認させることで、極右・排外主義勢力の影響力が拡大した

のです。極右・排外主義の問題をこのような構造からつかむことが大切です。

民青同盟員は、このような構造をつかみ、極右・排外主義を批判するとともに、苦しさや閉塞感のおおもととは、外国人ではなく「財界中心」「アメリカいいなり」の自民党政治にあると、事実に基づきながら、自民党政治から抜け出す展望を示す姿勢を徹底しましょう。民青同盟や若者憲法集会実行委員会などで学びを深め行動の力にするとともに、行動する青年に草の根から力を合わせましょう。そのなかで、極右・排外主義勢力とのたたかいが、市民的モラルを守り、多数の青年から共感を得られるように貢献しましょう。

また、極右・排外主義と結びつきがちな、過去の侵略戦争美化と戦前回帰の潮流についても、事実に基づき、学び、克服していきましょう。

#### ■ジェンダー・人権

極右・排外主義勢力が台頭する状況は、ジェンダー・人権分野にも強く後ろ向きな影響を与えています。民青同盟としては、このような状況だからこそ、同盟員が新しい社会を担うにふさわしいジェンダー・人権感覚を身に着ける学びを重視します。

ジェンダー・人権分野での進歩をつくるためには、様々な分野のたたかいを発展させ自民党政治を終わらせることと、各地域・職場・学園において、ジェンダー・人権の視点を貫き、そこが「誰もが生きやすい」ものとなるように、具体的な要求実現の取り組みをしていくことが必要です。そのために班が積極的な役割を果たしましょう。また、各地域・職場・学園の若者憲法集会実行委員会に力を合わせて、ジェンダー・人権という観点からの学習などもおこないましょう。

#### (3)『資本論』及び科学的社会主義の学びを青年のなかに広げる

第49回大会期は、『資本論』及び科学的社会主義の学びを青年のなかに広げることを、民青同盟独自の取り組みとして位置付けることを呼びかけます。

青年の模索が深まるなかで、資本主義の限界を感じるとい声はますます多く、また、社会や政治のおおもとの仕組みを知りたいという声もいままで以上に増えています。『資本論』及び科学的社会主義の学びが青年の要求となる客観的条件が高まっているということです。

その条件のもと、民青同盟は、日本共産党と協力し、『科学的社会主義Q&A』ブックレットを皮切りに、『Q&A 共産主義と自由』（青本）、『Q&A いま「資本論」がおもしろい』（赤本）という科学的社会主義の理論的到達を築き、それらが書籍として刊行されています。主体的条件も整っているということです。

だからこそ、いま、青年のなかに、『資本論』及び科学的社会主義の学びを思い切って広げるときです。班と機関が協力し、各地域・職場・学園で、『資本論』ブーム「科学的社会主義ブーム」を起こしましょう。

『Q&A いま「資本論」がおもしろい』（赤本）そのものを青年とともに学ぶ連続的

な企画に、都道府県・地区・班など適切な範囲で挑戦しましょう。とくに学生班で条件のあるところは、学内で大宣伝をしたうえでそのような企画をおこないましょう。たくさん青年とともに学ぶことを重視し、目標を持ち、系統的に取り組みましょう。また、『Q&A いま「資本論」がおもしろい』（赤本）をきっかけに、青年とともに『資本論』に挑戦していく流れをつくることも重要です。

『Q&A 共産主義と自由』（青本）と『科学的社会主義Q&A』ブックレットも青年のなかに普及し、ともに学ぶ機会をつくっていきましょう。これらは、企画とともに、個別・少数の青年を対象としてともに学んでいくなど、『Q&A いま「資本論」がおもしろい』（赤本）と並行して普及していくために工夫しましょう。『Q&A いま「資本論」がおもしろい』（赤本）などに関連する各媒体での対談なども活用しましょう。

「『資本論』ブーム」「科学的社会主義ブーム」を起こす大前提となるのは、大量宣伝です。班と機関が知恵と工夫を凝らし、各地域・職場・学園の青年全体に網をかけて、告知を強めましょう。

資本主義の本拠地ともいえるアメリカで「民主的社会主義者」のニューヨーク市長や「社会主義者」を自称するシアトル市長が誕生するような情勢のもと、民青同盟のこれらの取り組みは、日本社会を大きく変え、民青同盟のかつてない大飛躍をつくりだす可能性を持っています。

#### （4）総選挙

総選挙はいつあってもおかしくありません。総選挙となった場合は、情勢を踏まえつつ、それまでにつくってきた国民的・民主的共同の力を発揮し、“反動ブロック”を押し返し日本共産党の議席を伸ばすために力を尽くしましょう。現実味を帯びてきた段階で中央としてなんらかのアピールを出します。

### 第3章 同盟員の学びを大切にする同盟活動にしよう

同盟員の要求実現や成長という観点からも、『資本論』及び科学的社会主義の学びを青年のなかに広げるといふ観点からも、同盟員の学びを大切にする方向で同盟活動を発展させることが求められています。三つの方向で、学びを発展させていきましょう。

第一に、基礎講座からすみやかに、同盟員の学習セミナー全四課の受講を推進することです。とりわけ、すべての同盟員が、いち早く、第一課（科学的社会主義）と第二課（日本共産党綱領）を受講できるように、班と機関が相談しながら進めましょう。第一課（科学的社会主義）は、『科学的社会主義Q&A』ブックレットの読了・交流によっても修了としています。班会での集団的な受講も視野に入れて、徹底していきましょう。

第二課（日本共産党綱領）は、新しい教材を発表するので、それを中心として、同盟員

の未受講を克服していきましょう。

第二に、同盟員自身が、『Q&A いま「資本論」がおもしろい』（赤本）と『Q&A 共産主義と自由』（青本）をよく学ぶことです。民青同盟員としての独習や、班会・機関会議での集団的な学習・交流をおこないましょう。それが、青年とともに学ぶ際の大きな力となります。また、「自分のかけがえのない自由な時間を何に使うのか」など生き方をみんなで問いかけ合い考えることは、同盟活動を根本から発展させる原動力になっていきます。

第三に、同盟員や青年の要求に応える学びを多彩におこなっていきましょう。若者憲法集会実行委員会の学習会などを班で位置付け参加することも大事にしつつ、民青班や機関としての学びをしっかりとこなうことも力になります。卒業生や日本共産党の協力を得ながら、また、民青新聞をよく活用しながら、これをおこないましょう。

いずれの学びも、歴史的情勢の新しい局面という自覚のもとにおこないましょう。たにかい・要求実現や同盟建設などの諸課題はありますが、それらと対立させることなく、組み合わせながら、同盟員の学びを大切にする同盟活動の発展をつくりましょう。

## 第4章 新しい局面をもっと前に進める同盟組織をつくろう

第48回全国大会以降、民青同盟は、3736名の新しい仲間を迎えてきました。これは前回大会期を485人上回る前進です。同盟現勢は前回大会から約1600人増加し、8458名となっています。

第48回大会期の同盟建設において、前向きな変化が大きく三つありました。

第一に、主体の奮闘と情勢の進展によって、青年のなかに分け入って仲間を迎える取り組みが、よりいっそう大きく実ったことです。たくさん仲間が増えたことや仲間を迎えられる同盟員が増えたことは、同盟組織全体にとっても班にとってもたたにかいにとっても、前向きな変化をつくり出しています。

第二に、週一回の班会開催をはじめとした原則的な活動を確立するためにもたたにかいの重要性が見えてきたということです。原則的な活動はたたにかいの後押しとなりますが、たたにかいに立ち上がることもまた原則的な活動を確立していく後押しになるという関係が見えてきています。困難を抱えていた班が、青年の要求実現のために立ち上がり始めることで、週一回の班会開催をはじめとした原則的な活動が強化される経験も生まれています。この間、週一回の班会開催のためには、役員のこだわり、班プランの実践、新しい仲間を迎える、ということを強調してきました。これらに加えて、たたにかいに立ち上がることを追加し強調したいと思います。たたにかいから原則的な班活動をつくっていく、という挑戦がいま求められています。

第三に、「班が主人公」でたたにかい結びつきをつくりそのなかで仲間を迎える経験が、

部分的であるものの、系統的につくられてきたことです。これを全体に広げよりいっそう推し進めることが、民青同盟の前進が次のステージへ移行するために避けては通れない、しかし、確かな道です。役員が先頭に立ち青年のなかに分け入って仲間を迎えることも、週一回の班会開催を確立することも、突き詰めれば、「班が主人公」でたたかい結びつきをつくりそのなかで仲間を迎えていけるようになるための努力です。この方向がこの一年間のなかでより鮮明に見えていることは大いに確信にしましょう。

これら三つの前向きな変化をつくり出してきた根本にあるのは、方針に基づいて活動をつくっていく積極的な姿勢です。方針は同盟員と同盟組織を現状からさらに前へと後押しするものです。方針の実践・具体化とは、方針と照らし合わせ、現状のなかに発展の芽を見つけ出し、方針の指し示す方向に現状をそれぞれなりに発展させていくことです。現状を固定的に捉え諦めてしまう消極的な姿勢から、方針の実践・具体化はつくられず、三つの前向きな変化が生まれることもありませんでした。すべての同盟員と同盟組織が、消極的な姿勢を克服し、積極的な姿勢をつくることが、三つの前向きな変化を同盟全体に広げより大きなものとしていくための最重要課題です。

#### (1) 新しい局面をもっと前に進める班を

いま、青年にとっても情勢にとっても必要なのは、各地域・職場・学園に根差し、新しい局面をもっと前に進めていく班です。大きく四つの方向で、思い切って班を発展させましょう。

##### ①草の根で青年の要求実現のためにたたかう班をつくる

いま、すべての班が問われていることは、草の根で青年の要求実現のためにたたかう班になれるかどうか、ということです。新しい局面のもと、青年は模索を深め、ともに考え行動する仲間を求めています。各地域・職場・学園に、たたかう民青班があるかどうかは、青年にとっても情勢にとっても決定的です。以下、五つのステップで、「草の根で青年の要求実現のためにたたかう班」になりましょう。

第一に、情勢と青年の変化を踏まえ、自分たちが「草の根で青年の要求実現のためにたたかう班になりたいのかどうか」よく討議し、「なりたい」と思えるようになりましょう。「なれるかどうか」ではなく、「なりたい」という気持ちから出発することが第一歩です。学習、青年の実態調査・交流なども取り入れながら、「なりたい」を班の意思にしていきましょう。ここは実践にとりかかったのちでも行き詰まるたびに立ち返るようにします。また、「たたかい」を、青年の要求実現という観点から広く捉えることも大切です。

第二に、各地域・職場・学園の青年向けに、要求実現のための取り組みをまず一つ計画・実行することです。形態は、班主催の公開企画でも、対応する若者憲法集会実行委員会に持ち込んで一致が取れたら若者憲法集会実行委員会主催でも、可能です。時間は班会と同じ時間でも班会と別の時間でも可能です。内容は、学習会でも読み合わせでも

交流会でも宣伝でも聞き取り調査でも可能です。大事なのは、青年のどのような要求に応える企画なのか、それを明確にして、同盟外の青年の参加目標を決めることです。日時と内容が決まったら、結びつきやSNSやビラなどで各地域・職場・学園の青年に告知します。終了後は、次の班会や振り返りのための会議などで振り返り、反省とともに必ずあるであろう前進面を確認することが大切です。

第三に、二回目の、要求実現のための取り組みを計画・実行することです。一回目と同様の段取りで、反省を生かすところは生かし、青年のどのような要求に応える企画なのかを明確にして、同盟外の青年の参加目標を決めて取り組みます。

第四に、三回目の青年の要求実現のための取り組みに際しては、決議案第2章（1）に照らして、班がおこなってきた青年の要求実現のための取り組みを点検し発展させていくことです。この段階でまだ若者憲法集会実行委員会が位置付いていないなら位置付けることがここでは一番大事です。そして、どのような要求に応えてきたのかを振り返りながら、暮らしと平和をめぐる要求実現のたたかいを太く貫いていく方向に発展させましょう。青年との共同がつくられていないなら青年を巻き込む努力を強めましょう。「班が主人公」という観点で、都道府県委員・地区委員に負うところが大きかったり、班全体としての関わり方が弱かったりする場合には、改善をはかりましょう。

第五に、ここまでの一連の流れのなかで生まれた矛盾を、その都度もしくはまとめて、発展の力にすることです。たとえば、要求実現の相談を班会で一からすると班会の時間が足りないという矛盾は、班会の時間や頻度を拡充するなり、班長・班委員会や担当者を確認し別時間で詰めた相談をしてもらうなどの方向で発展的に解消します。若者憲法集会実行委員会の取り組みと週一回の班会が重なってしまうという矛盾は、班会以外の活動時間で若者憲法集会実行委員会の取り組みの時間を取るように発展的に解消します。班員が少なく企画が大変だという矛盾は、可能な解決をはかりつつ、根本的には班員を増やすことによって発展的に解消することを目指します。このように、たたかいを位置付けていく過程で、班が全体として成長していくことを第49回大会期は大切にしていきたいでしょう。

②科学的社会主義を学び、『資本論』及び科学的社会主義の学びを青年のなかに広げる班をつくる

同盟員が科学的社会主義をよく学ぶとともに、『資本論』及び科学的社会主義を青年のなかに広げる班をつくることは、いまの情勢でとてもやりがいのある面白い取り組みになっています。班としては、以下三点をおこないましょう。

第一に、励まし合って、班員みんなが『科学的社会主義Q&A』ブックレット、『Q&A 共産主義と自由』（青本）、『Q&A いま「資本論」がおもしろい』（赤本）を所有しましょう。

第二に、班員が各文献を、独習なり集団学習なりどのように学習するのか班で計画を持ちましょう。なかでも、『科学的社会主義Q&A』ブックレットについては学習セミナー

ー第一課でもあるので、班会で学ぶことも含めて優先的に計画を立てましょう。同盟員が学ぶことは、たたかいの発展の理論的支えになるという視点も大切です。

第三に、自分たちの地域・職場・学園で、『資本論』ブーム」「科学的社会主義ブーム」をどのようにつくるのか、青年とともに学ぶ枠組みや各文献普及の方法などを含めて、機関と相談しましょう。たたかいのなかで結びついた青年に文献を普及していくことも積極的に追求しましょう。

### ③結びについている青年を仲間に加え、民青同盟の前進を次のステージへ

たたかいや学びで結びについている青年を仲間に加えることが、民青同盟の前進を次のステージに移行させる確かな道です。「班が主人公」のたたかいを大きく発展させる第49回大会期において、たたかいで結びについている青年を仲間に加えるための独自追求をはかることは、これまで以上に重要です。拡大の独自追求のための「6つの手立て」――  
―(i) 目標を決める、(ii) 班や同盟員の結びつきを書き出し「対象者名簿」をつくる、  
(iii) それぞれの青年がどのような願いを持っているかつかむ、(iv) その青年が民青に加盟する意義をよく交流する、(v) 知る会の約束を取る、(vi) 加盟呼びかけ文を活用して加盟を訴える――をよりいっそう班のものとしましょう。このなかでもとりわけ、班が真剣に自分たちの「目標を決める」ということを重視します。

### ④原則的な班活動の確立――週一回の班会開催、班プラン、班長・班委員、同盟費、民青新聞

週一回の班会開催をはじめとした原則的な班活動の確立は、班がたたかいに立ち上がるうえで、学んでそれを青年に広げるうえでも、仲間を迎えるうえでも、土台になります。原則的な班活動が崩れると、たたかいや拡大が進んでも矛盾が生じ、班としての役割発揮が困難となります。週一回の班会開催、班プラン、班長・班委員、同盟費、民青新聞購読・活用を班としてしっかり確認することが大切です。

土台中の土台となる週一回の班会開催は、役員のこだわり、班プランの実践、新しい仲間を迎えることに加えて、班員のたたかいへの決起によって確立していきます。

#### (2) 班を支える強い役員集団に

第48回大会期の活動においては、役員集団の奮闘が民青同盟の組織的前進をけん引してきました。第49回大会期は、この間の努力を発展させつつ、奮闘する役員の数を増やすことを追求しましょう。そのうえで、三つの方向を重視します。

#### ①青年のなかに分け入って仲間を迎える

青年のなかに分け入って仲間を迎える取り組みが同盟の発展を支えています。第48回大会期のこの取り組みの意義は、歴史的情勢との関係はもちろん、「情勢をつかみ班の拡大を後押しする頼もしい機関をつくる」「班が元気になる」「班がたたかう援助をでき

るようになる」といった同盟建設上の三つの角度でも大いに発揮されました。これは、第49回大会期の班づくりの方針との関係でも引き続き重要です。役員の任務として、役員同士で支え合って、すべての役員が仲間を迎えていける役員集団を各都道府県・各地区委員会につくりましょう。いま、「青年との接点を増やし加盟呼びかけ文を読んで粘り強く訴えればたくさんの仲間を迎えられる」という「テーゼ」はますます有効です。これを実践し確信を持つ役員集団は、班にとっても青年にとっても頼もしく、新しい局面を前に進めるうえで、欠くことのできない存在です。

街頭や大学門前で仲間を迎えた同盟員の結集についても、重要な前進がありました。「基礎講座の約束をその場で取る」「中央委員会作成の加盟者向けパンフレットを活用する」といった方針通りの実践をおこなった組織では、明確に加盟者の結集がよくなっています。情勢も力に、方針通りの実践を継続・発展させていきましょう。

## ②班の発展を支える

班づくりの確かな方針があっても、すべての班が班だけで前進をつくっていきけるわけではありません。「班が主人公」でたたかい、そのなかで結びついた青年を仲間を迎えていけるようになることは民青同盟が飛躍をつくるうえで欠かせませんが、そのためには役員の援助も欠かせません。以下の三つを中心に、班の援助を強化しましょう。

第一に、機関会議を力に、方針を貫徹する立場で班を励ますことです。第48回大会は、役員の班に対する不十分な提起を課題としましたが、それは依然として乗り越えられていません。方針理解、現状分析、実践・具体化、このいずれかで班が行き詰まったとき、方針をやり切る立場に立って班と一緒に、もしくは役員の仲間とも相談して、考え抜く役員が必要です。班が本当に求めているのは、方針実践が困難であるという寄り添いではなくて、「このようにしたら方針が実践できて班が発展していく」という展望です。役員一人ひとりが方針を貫徹する立場で班を励ますようになりましょう。

第二に、機関会議を力に、情勢を生きいきと語り班を励ますことです。方針を貫徹する立場に立とうとすると、班も役員も、情勢抜きで、どうやり切るかという相談になることが少なくありません。しかし、方針を実践していく根本は情勢であり、そのもとでの青年の変化です。行き詰まりそうなきほど、情勢を学び、語り、班を励ます役員になりましょう。青年のなかに分け入って実際の青年の変化に触れていたり、よく学んでいたたりすることは、情勢で班を励ます大きな力となっています。

第三に、機関会議を力に、班に生き方を問いかけ前向きに後押しできるようになることです。同盟員は、班員も役員も、その多くは、仕事や学業などもあるなかで、また、活動以外にもいろいろやりたいことがあるなかで、民青同盟で活動しています。そこには様々な葛藤があります。どういう気持ちや考えで「自由な時間」を民青同盟の活動として用いるのか。ここを自身が突き詰めて考えて、班員の葛藤に応え、前向きに後押しできる役員になりましょう。「反動ブロック」とのたたかいで勝利し自民党政治を終わらせるためには、社会進歩と生き方を重ねて頑張り抜くたくさんの同盟員と青年の存在

が不可欠です。生き方を問いかけることは、いまの情勢のもとでもとても大事になります。

### ③自らがよく学ぶ

青年のなかに分け入って仲間を迎えるうえでも、班の発展を支えるうえでも、役員自身が学ぶことが大切です。機関でよく相談し、日本共産党の力も借りながら、独習と集団学習を組み合わせ、情勢、綱領や科学的社会主義を学ぶ計画を立てましょう。『科学的社会主義Q&A』ブックレット、『Q&A 共産主義と自由』（青本）、『Q&A いま「資本論」がおもしろい』（赤本）はもちろん、科学的社会主義の古典や『資本論』にも挑戦しましょう。

また、民青同盟の方針それ自体を学ぶ努力も強めましょう。各都道府県で、リーダー講座なども検討しましょう。

### （3）財政・機関紙活動、組織などの実務

都道府県委員会の財政・機関紙、また組織などの実務について、改めて意義を確認し、担い手を増やす方向で改善をはかりましょう。

夏冬の財政活動を同盟員の結集を高め同盟を元気にするための期間として特別に位置付けつつ、平月の同盟費・機関紙代を班で集める努力を強めましょう。役員は、班自身がたかひに立ち上がることに相乗的にそのような努力をしていけるように、班を援助しましょう。同盟活動のなかで同盟費・機関紙代を集める活動がどのような意義を持っているのか、担い手となる同盟員が丁寧につかむことが大切です。

民青新聞については、日本共産党とも相談しながら、配達・集金の適切なルートを再検討しましょう。都道府県委員会・地区委員会では読者名簿が整理されていないところはこれを早急に改善しましょう。班会では民青新聞を読んで交流する「みんなのタイム」とともに、班員の投稿を後押しするような取り組みをおこなしましょう。

組織などの実務については、規律・防衛に気を付けながら、集団的に分担するなどの検討をしましょう。実務は単なる実務として完結するものではありません。そのやり方と進捗は、たかひと同盟建設を前進させる力になることもあれば、逆の力となることもあります。

### （4）拡大目標

第49回大会期の拡大目標は、引き続き4000人以上とし、現勢を1万人といえる組織になることとします。これをやり切って、数万の民青同盟をつくるための確かな土台を築きましょう。

以上